

平成25年5月27日

水産庁

独立行政法人 水産総合研究センター

平成25年度 日本海マアジ長期漁況予報

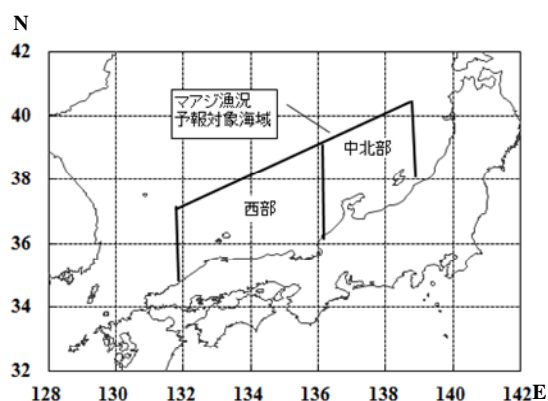
—別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果—

今後の見通し（平成25年5月～9月）のポイント

対象魚種：マアジ
対象海域：日本海（島根県～新潟県）
対象漁業：まき網、定置網

来遊量
日本海西部・中北部ともに前年並み

※「前年」は2012（平成24）年5月～9月
を示す。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、中津

電話：03-3502-8111（内線 6800）、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

（予報の詳細についてのお問い合わせ先）

独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

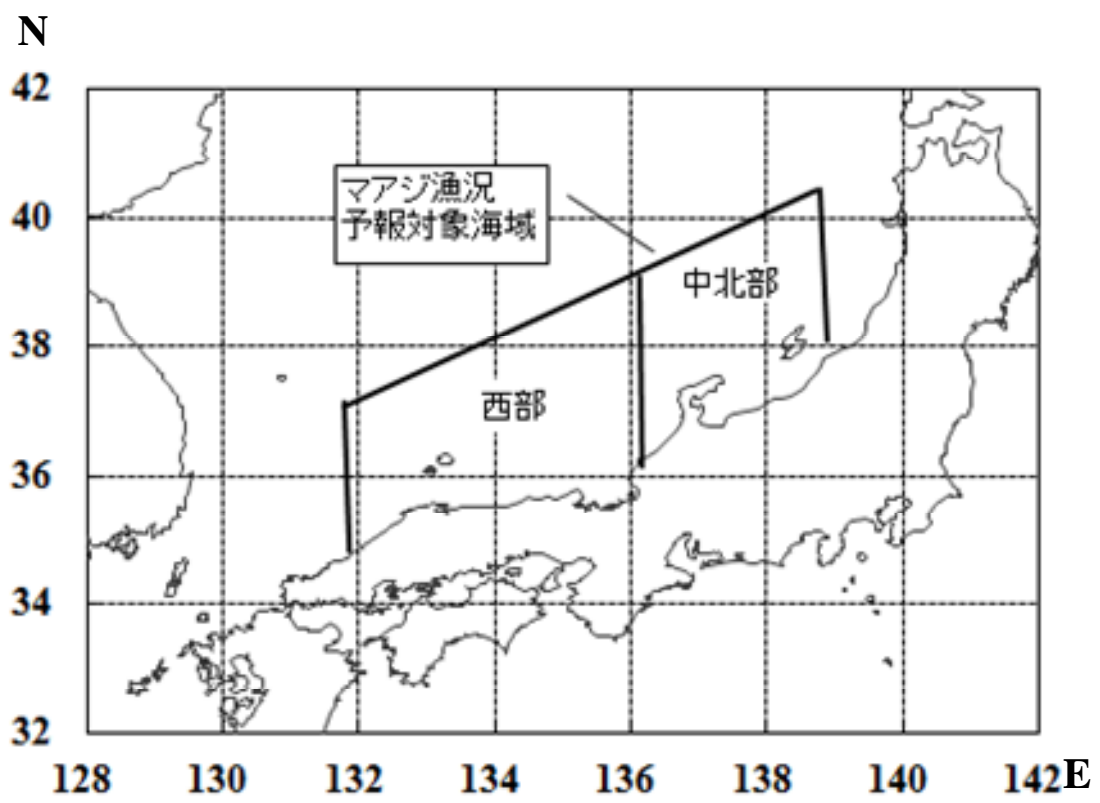
担当：関根、檜山

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>



予報対象海域

平成 25 年度 日本海マアジ長期漁況予報

今後の見通し（2013 年 5 月～9 月）

対象海域：日本海（島根県～新潟県）

対象漁業：まき網、定置網

対象魚群：0 歳魚（2013 年級群）、1 歳魚（2012 年級群）、
2 歳魚（2011 年級群）

- (1) 日本海西部では 1 歳魚が主体で、夏以降は 0 歳魚の割合が増加し、
全体の来遊量は前年並み。
- (2) 中北部でも 0 歳魚と 1 歳魚が中心で、前年並みの来遊が見込まれる。

※「前年」は 2012（平成 24）年 5 月～9 月を示す。また、「体長」は尾叉長で測定した。

漁況の経過（2012 年 4 月～2013 年 3 月）及び今後の見通しについての説明

1. 資源状態

対馬暖流系マアジの資源量は 1970 年代後半に低水準であったが、1980 年～1990 年代前半に増加し、1993 年～1998 年に高い水準を示した。1999 年～2002 年に資源量は減少したが、2003 年～2004 年に資源量は増加した。2005 年以降の資源量は減少傾向を示したが、2008 年以降には加入量が増加したため、資源量もやや増加したと推定されている。

日本海で漁獲されるマアジは対馬暖流系資源の一部であり、その動向は東シナ海域の資源状態と密接に関わっている。日本海における資源の主体は、春季以降に東シナ海から九州西・北部、さらに日本海西部において産卵・ふ化し、0 歳魚として対馬暖流に沿って能登半島以北に分布を広げる。越年して 1 歳魚となると、春季に九州西・北部から日本海西部で漁場を形成し、その後中北部に分布を広げる。その後は地付き群として中北部で漁場を形成するものの他、東シナ海に移動して漁獲されるものもいると考えられる。

2. 漁況の経過

2012 年度（2012 年 4 月～2013 年 3 月）における島根県～新潟県の主要港における水揚げ量は 24,000 トン（各府県の速報値等の集計による）であり、2011 年度（2011 年 4 月～2012 年 3 月、43,000 トン）および近年度（2007 年～2011 年度）平均（46,000 トン）

を大きく下回った（図1）。

日本海のマアジの漁獲量はまき網と定置網によるものがほとんどであり、定置網の占める割合は概ね20%以下で、まき網の漁獲量の多寡が全漁獲量に大きく影響している（図2、上）。2012年度におけるまき網の漁獲量は5月～6月に2011年度を上回ったが、他の月では2011年度を大きく下回った。また、2012年度の定置網の漁獲量は7月を除き2011年度を下回り、低調に推移した（図2、下）。

地域別では、定置網が中心の中北部の漁獲量は、7月以外では2011年度または近年度平均を大きく下回った。まき網が中心の西部では4月～6月に2011年度を上回ったが、2012年7月以降では2011年度または近年度平均を大きく下回り低調に推移した（図3）。このようにマアジの漁況は定置網およびまき網または西部および中北部海域ともに全般的に低調であった。

3. 今後の見通しの説明

今後の日本海西部における漁獲の主体は1歳魚（2012年級）で、初夏以降0歳魚（2013年級）の割合が高くなると思われる。2013年級（0歳魚）については今後の海況によって加入量が大きく変動する可能性もあるが、東シナ海における着底稚魚の分布量調査から2012年級を下回ると見積もられる（平成24年度第2回対馬暖流系アジ・サバ・イワシ長期漁海況予報、西海区水産研究所）。2012年5月～6月に日本海西部で行ったトロール調査によるマアジ稚魚の採集数と水温分布から算出した2012年級の加入量指数（平成24年度日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報、日本海区水産研究所）は低い水準を示したことに加えて直近までの漁況経過が低調であったことから、2012年級（1歳魚）は2011年級群を下回ると考えられる。また、昨年の資源評価の結果及び漁況の推移から2011年級（2歳魚）は2010年級を上回る豊度と考えられる。以上から、日本海西部では、0歳魚と1歳魚が前年を下回り、2歳魚は前年を上回る来遊が考えられるが、全体の来遊量は低調な前年並みと考えられる。日本海中北部については、定置網中心に初夏以降0歳魚の漁獲物に占める割合が高くなるが、今後の漁況は0歳魚と1歳魚が中心で西部海域と同様前年並みと思われる。

日本海に来遊するマアジは、中長期的に対馬暖流域の水温変動と正の対応関係が見られる。期間中6月までの対馬暖流域の50m深水温は平年並みで経過すると予想されてお

り（平成 25 年度第 1 回日本海海況予報、日本海区水産研究所）、全般的にマアジ漁況に与える影響は少ないと思われる。

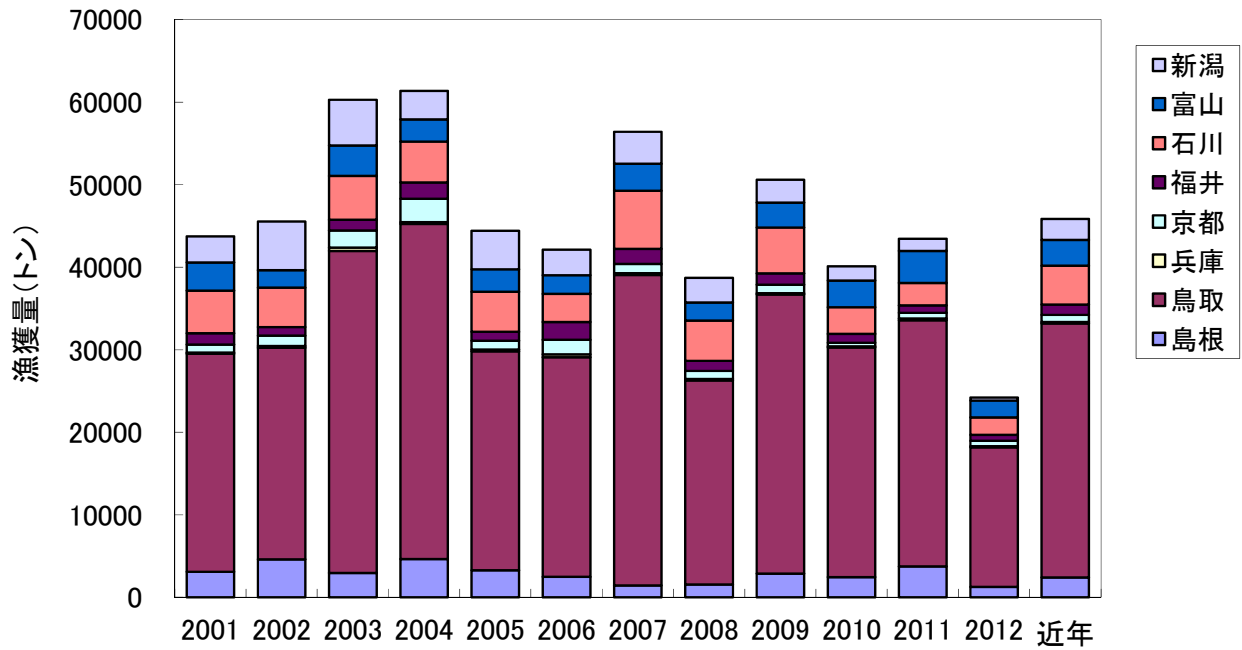


図 1 日本海主要港（鳥根県～新潟県）の水揚げ量の推移（漁期年度、4 月～翌年 3 月）。

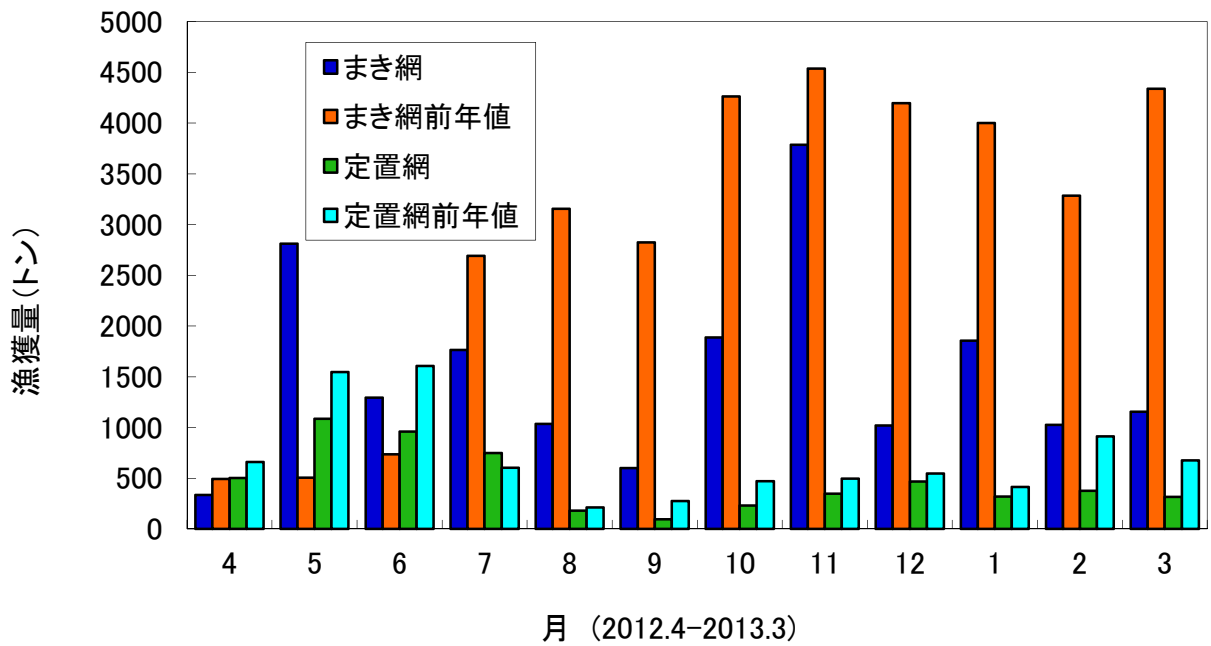
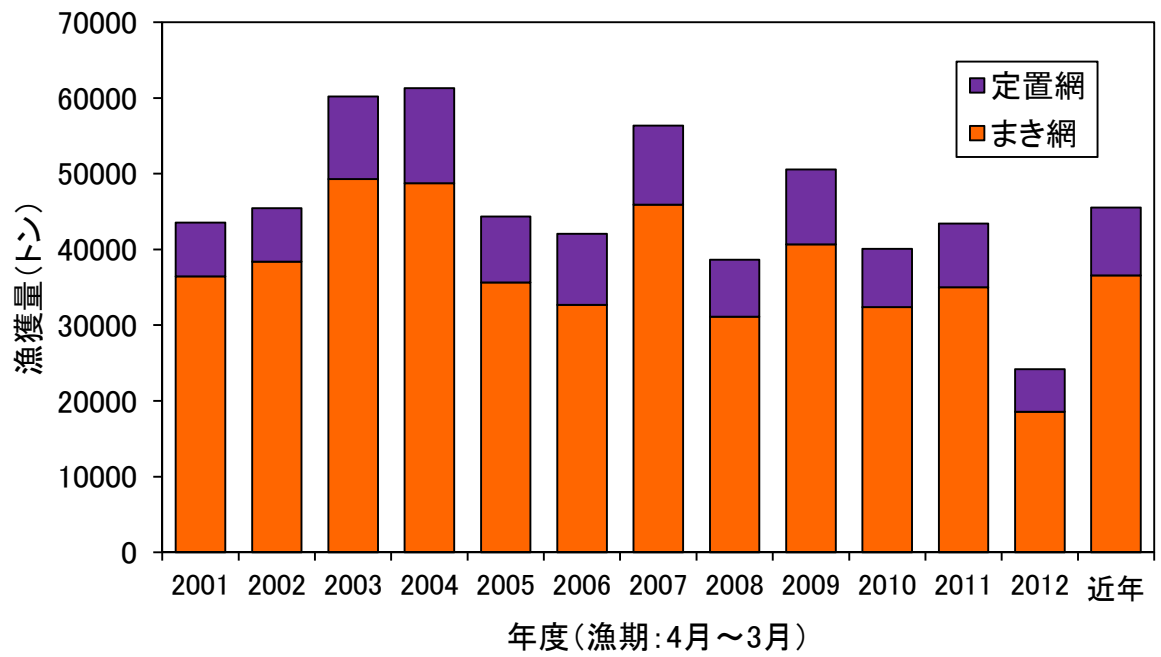


図2 漁業種類別漁獲量の経年(上、漁期年度、4月~翌年3月)と経月変化(下、2012年4月~2013年3月)。近年値は2007年~2011年度の平均値を示す。前年値は2011年4月~2012年3月である。

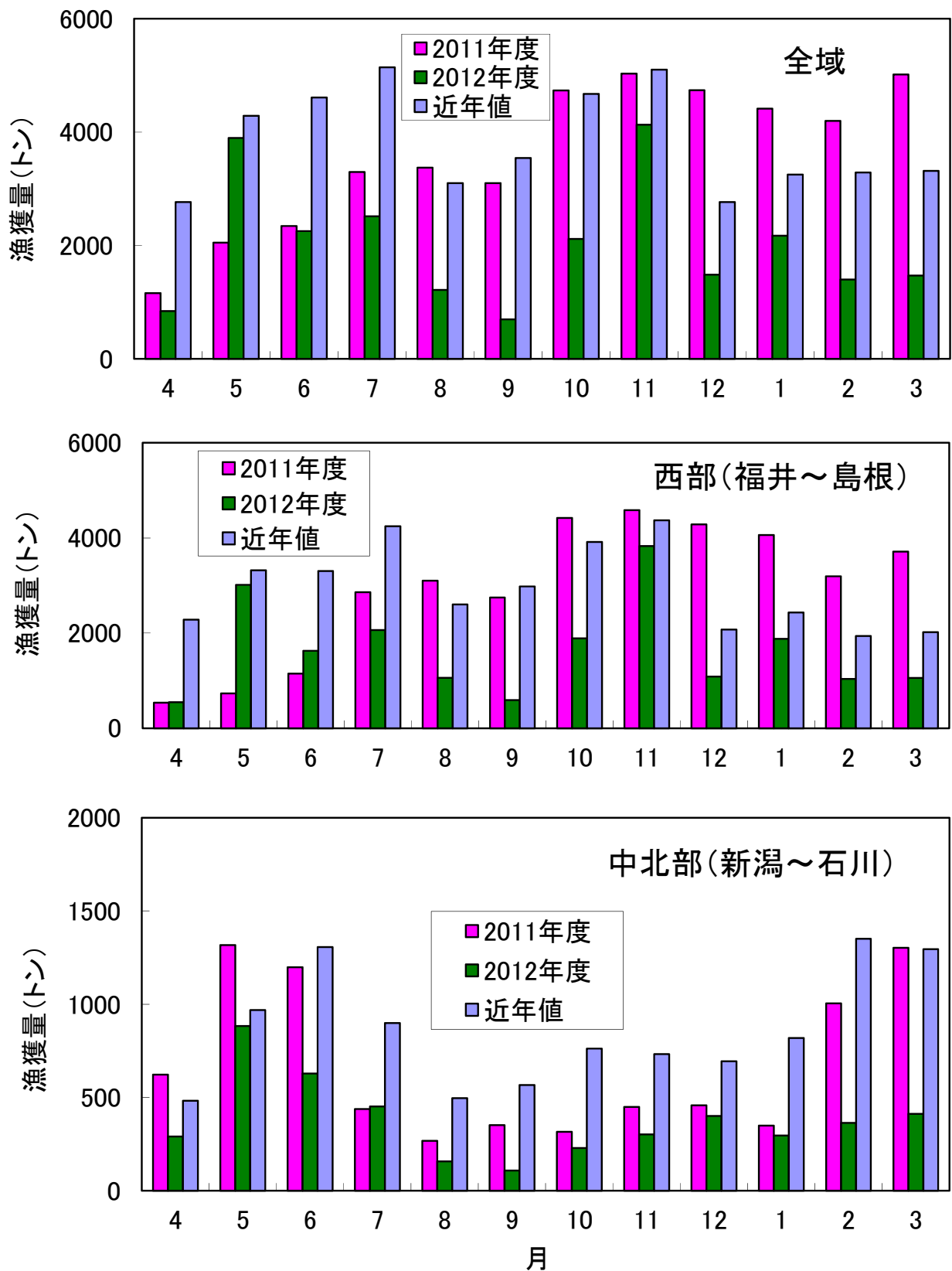


図3 海域別日本海主要港への水揚げの経月変化
 近年値は2007年~2011年度の平均値を示す。

参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産試験場	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	(取りまとめ機関) 独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所